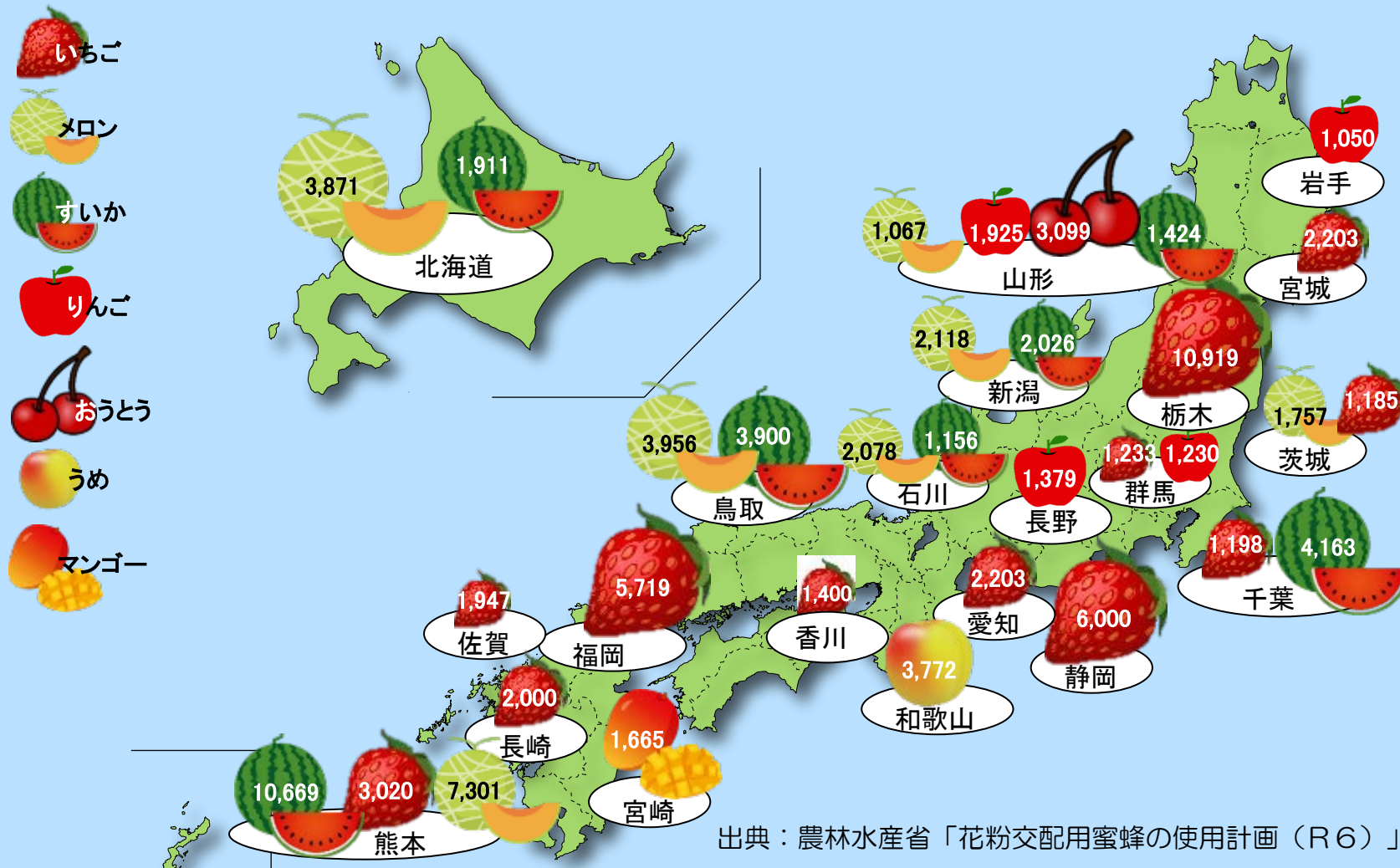


花粉交配用ミツバチの使用分布

○ 花粉交配用ミツバチは、いちごやメロン、すいかを中心に全国で使用。



全国で花粉交配用
蜜蜂が使われる
品目ベスト3
(併用を含む延べ数)



出典：農林水産省「花粉交配用蜜蜂の使用計画（R6）」

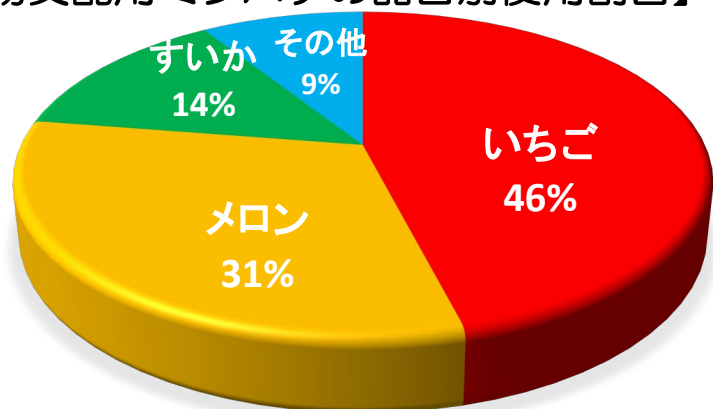
★花粉交配用に使われるミツバチ群数(1,000群以上を表示)。施設栽培以外に、露地栽培で使われるミツバチも含まれます。

花粉交配用ミツバチの使用割合

- 花粉交配用ミツバチは、いちごやメロン、すいかの他、たまねぎやキャベツの採種用にも使用。
- 特にいちごでは、施設栽培面積の約8割で花粉交配用ミツバチを使用。



【花粉交配用ミツバチの品目別使用割合】

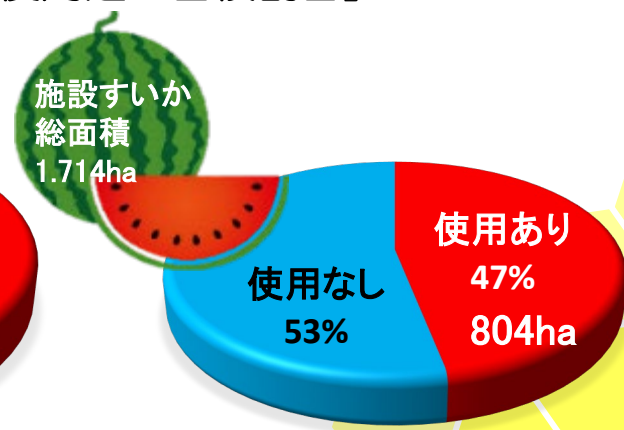
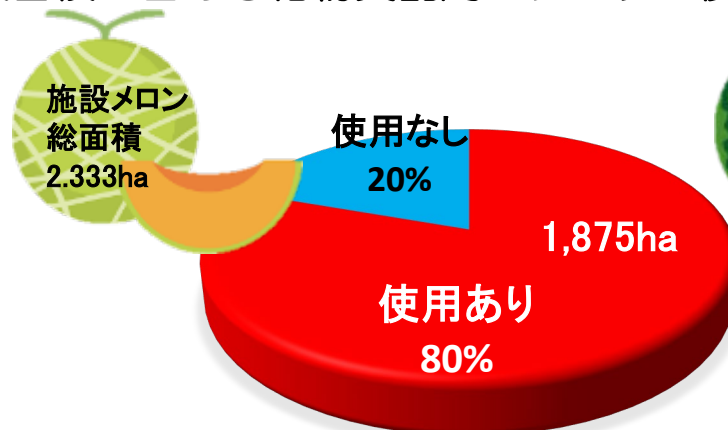
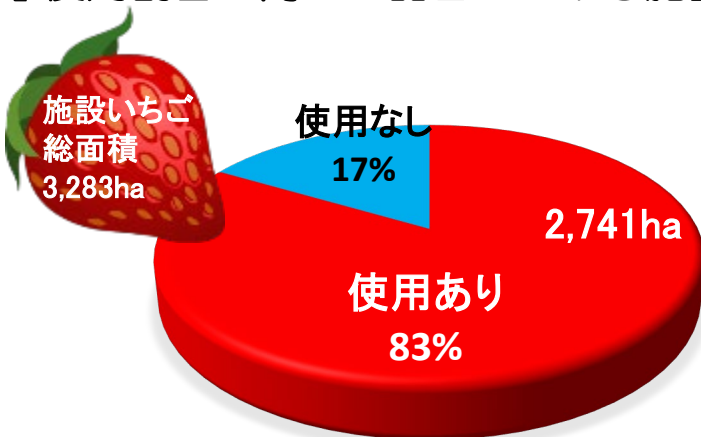


合計	5,958ha
いちご	2,741ha
メロン	1,875ha
すいか	804ha
その他	538ha

(その他)

たまねぎやキャベツなど、種を採るために使われる場合は、他の品目・品種の花粉と混ざらないよう、専用のハウスで行われます。

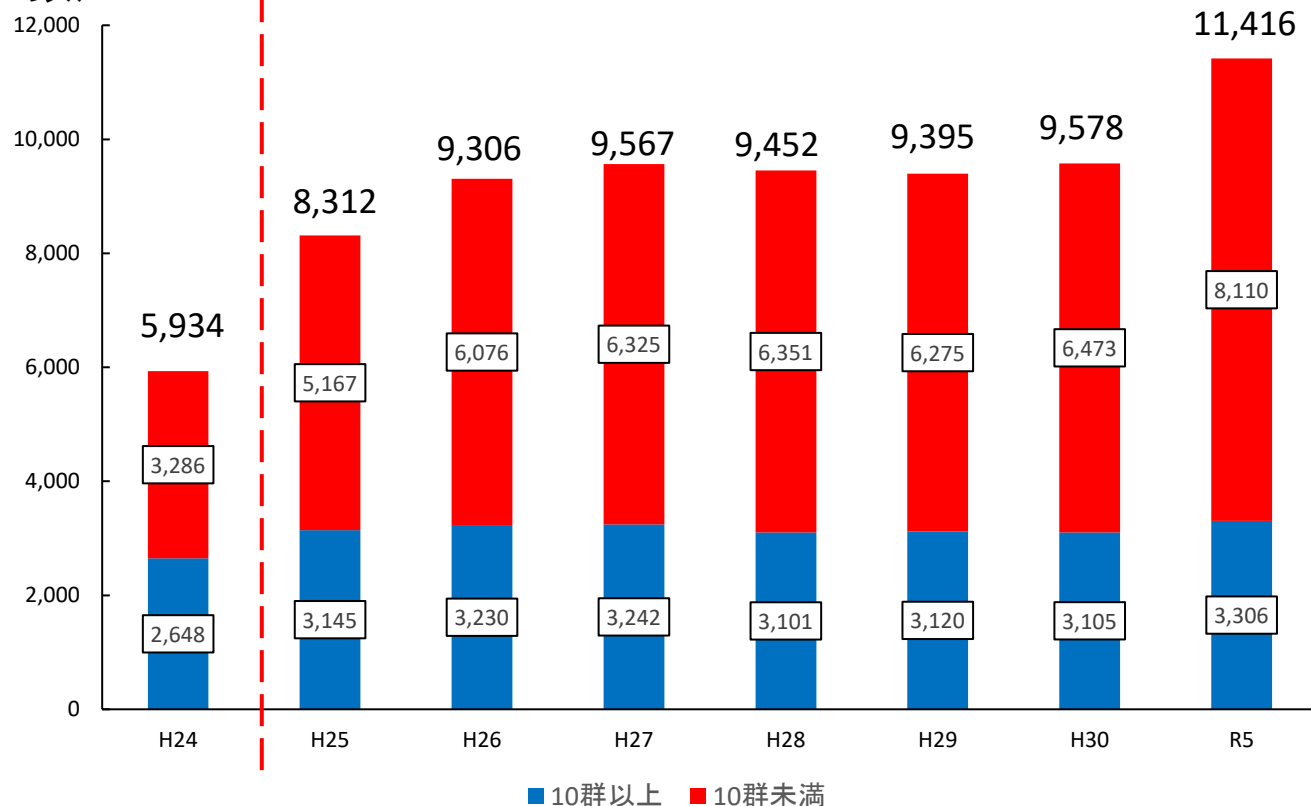
【使用割合の高い3品目における施設面積に占める花粉交配用ミツバチの使用延べ面積割合】



ミツバチの飼養戸数

- 平成25年に養蜂振興法が改正され、趣味の養蜂まで届出が拡大されたことから、ミツバチの飼養戸数は25年以降増加。養蜂業を営む養蜂家数の推移はほぼ横ばい。

(戸数)



改正法施行

出典：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」

- 趣味で養蜂をする場合も、都道府県への届出が義務づけられています！

- ミツバチの飼養場所を移動する場合も、移動先の都道府県へ届け出る必要があります！



花粉交配用ミツバチの不足

○ ミツバチは平成元年頃から減少傾向が続いていた。このような状況の中で、平成20年以降、飼育管理の不備によるダニや農薬等による被害、天候不順による増殖不足に加え、これまでミツバチ不足を補ってきた豪州からの女王蜂の輸入が見合わされた（※）こと等により、ミツバチの不足が大きく報じられた。

（※）豪州の一部の州でミツバチの病気届出制度が変更され、同国からミツバチを輸出する時に病気がないことを保証するための方法などに関する日本と豪州の間の取り決めの内容が見直されるまで、豪州政府が自主的に輸出を見合わせていたもの。

